

ふかまちのまじ

第八十五号 二〇〇一年六月日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 番六三―三三七



いあいさつ

深町町内会連合会
会長 梶谷 和伸

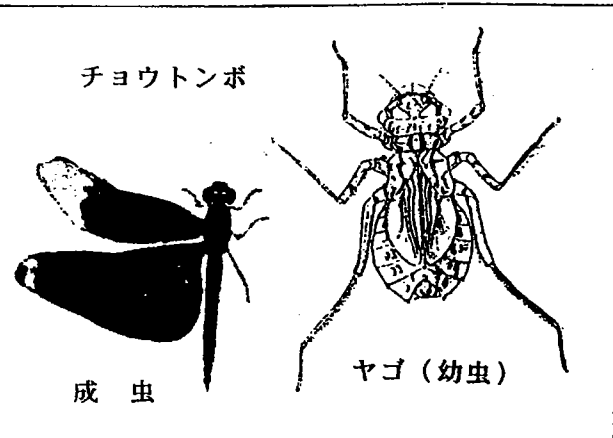
この度の定期総会において、第六代会長の任に就くことになりました。平成八年に次いで二度目とはいえ、その重責を痛感しております。会員の皆様や役員の方々の協力のもとに、この責務を果たすべく、微力ながら努力していきたくと思っております。ご承知の如く上・中・下の各町内会はその規約に「相互親睦」や「明るい生活環境づくり」等を目的に挙げています。連合会の活動はこの目的の認識のもとに、深町の挙的行事を実施していきたくと思っております。今年度の連合会行事としては、毎月初めの広報誌の発行をはじめ、八月の盆行事、九月の町民運動会、十月の市民体育大会へ

の参加及び敬老会開催の外、三原市が主催する諸競技大会への参加を計画しております。連合会行事は、役員の方だけのものでも、また、子ども達（小学生）のためだけの行事ではありませぬ。町内の皆様の多数の参加によって、はじめて行事が盛大となってきます。私達の住む深町を愛する心のもとに、情報交換の場として、各町内会との交流の場として、各行事には会員の皆様の積極的な参加をお願い致します。各講、各班の役員として務められる期間だけでも、役員を辞められたい方も、協力参加をお願い致します。（連合会の行事に関するご意見をお寄せください。）

ふかまちの自然への想い (8)

深小学校長 小林龍一郎

「ふかまちのまじ」一五号増ページには「チョウトンボは何処へいった」の記事がある。その中で筆者は、七、八年前から深町にチョウトンボがいないなくなったことに注目されている。そして四季の昆虫層をつくりながら地域の自然を見直された。そこらで自然が壊れていくことに、私は平成一年の夏、深町で確かにはチョウトンボの華麗な飛行を見た。二匹が愛の踊りを舞い、水辺に産卵していた。しばらく見とれていたが、子どもたちに見せたくてオスを採集しようとした。だが、オニヤンマやギンヤンマよりも比較にならないほど素早く逃げ、捕獲は断念した。まるで私の臨時少年を笑っているほど、ゆとりのあるトンボの舞いであった。



チョウトンボ

ヤゴ (幼虫)

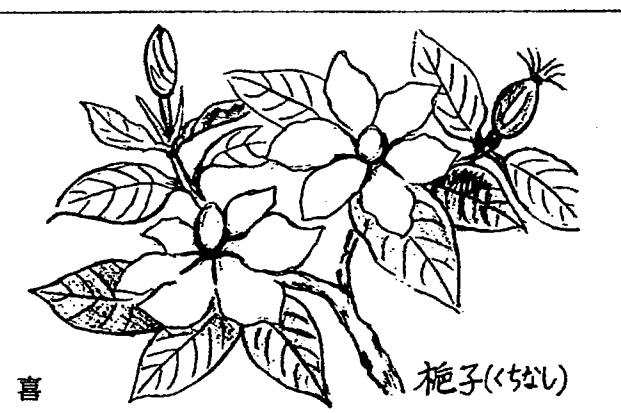
成虫

深町には実にトンボが多い。カワトンボ、イトトンボ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、オニヤンマ、アカトンボなど、昔なつかしいトンボが夏空を悠然と飛び夏がまたやってきた。

のような大旅行はしない。幅ひろくトンボにしては変な体型で美しい。飛び方もひらりと

あの小さくて軽い体のどこにそんなエネルギーがためられているのか不思議。飛ぶというよりは風に浮かんで流れているという表現をする人もいるが、確かに餌を求めて襲いかかる様は、まさに弾丸飛行である。トンボ、中でもチョウトンボが多くいるというところは、汚染や自然破壊が少なく、深町の人々の日々の暮らしがいか環境にやさしく配慮されているかというこの証左でもある。トンボの生息環境は、人間にとって不可欠な水との密接な関係にあることを見直したい。トンボの世界の異変は人間社会の異変の予兆である。と研究者は警告している。チョウトンボはコククリート川ではなく、植生豊かな池や川に生れ、成長二〇センチ、六月〇日頃まで小さな昆虫をともめて生活している。アカトンボやオニヤンマ、ギンヤンマ

多くの車がこの深町を通る（深町に来る）という事は、多くの人々がこの深町を見ているということ。これからのことから「町内環境美化」を意識した行動を起していきたいと思います。皆様のご指導とご協力をお願い致します。



ふるさと賛歌 (6)

石井 良雄

土 米は酒米 上等で
音に聞えた 深の芋
食べて美味い 黄西瓜も
味の秘密は 堆肥だろう
日当たりよくて 水はけも
日本一と ほめられた
この富有柿 食べてみよ

三 ここに生まれた 人達は
先取 進取の 気性あり
大正初期に マスカット
温室栽培 してみたり
梨を田圃へ 植えたりも
稲の育苗も 温床で
一本苗の 早植えも

土 養蚕、養鯉、養鶏に
養蜂、養豚、乳牛飼育
早耳着眼 さすがだな
農業機械の 導入も
よそよりうんと 早かった
この伝統の火を守り
もえて輝く火にしよう

★ ☆ ★ ☆ ★
優雅に、蝶のように飛ぶのでそのものずばりに命名された。子どもたちが

夕焼け小焼けのアカトンボ
おわれてみたのはいつの日か
と、三木露風の歌をうたい、トンボの姿を追い求め、夢中になった日々を故郷深町でたっぷりと体験してほしいものである。※お断り（個体数が少なく、自然保護の観点から生息場所の特定はしないことをご了解ください。）

町内各種団体六月行事予定

- ◆小学校(幼) 二日
- ◆衣替え(幼) 一日
- ◆社会見学(三年) 一日
- ◆交通教室(幼・小) 一日
- ◆ピヨピヨハウス(幼) 一日
- ◆たまねぎ掘り(幼) 一日
- ◆参観日(幼・小) 二日
- ◆プール開き 三日
- ◆誕生会(幼) 二日
- ◆女性会
 - 上組 七日
 - 中組 七日
 - 下組 七日

勝ち残る条件

平岡
かつては欧米先進国に追いつけ追い越せの時代があった。今の東・東南アジアが二重写しとなって目の前に浮かぶ。しかし、それも今までの、今では業種によって日本の先にある。平等教育も大切で、全体のレベルアップは図らねばならぬが同時に、できる者がその能力を十分発揮できる環境づくりは、それ以上に大切である。地球規模で争うには、特定の所でしか通用しない人間評価ではとうてい残れない。子どもの教育もそんな視野で行なってほしい。

展望

失業状態で時間を余らせている。羨望をこめて毎年春・秋二回贈られる叙勲者の表をゆっくりに眺める。(今回は春) 全ては大変なので今回は、勲一等から勲三等まで、勲一等・一七人。勲二等・七九人、計九六六人。内訳は政二一人。官二六一人。民二二一人。性別では女性二一人。女性三人。女性三人は新聞で「女性らしき名」で上げた数字で不確実。▼どういった基準で等級をつけられるのか詳しいことは知らぬが、巷間伝えられる評価基準では、あるボスに就き変化に耐え、大過なく過ごした人に贈られるようだ。それにしては女性が少ない。一等から三等までの全員で四一人中たったの三人、〇・七％とは。▼賞を贈りその功績を称えたい人は、国際規模で危険を冒して働いておられる人や、町で体の不自由な人の援助や清掃等日頃目立たない活動をしてくださる人々である。報酬を十分受け、運転手付きの高級車にふん反りかえる人に勲一等が適当なのか。▼女性の叙勲者が〇・七％は少ない。確かに実力のある女性に日頃よく接する(叙勲に無関係な人)。反面女性ボストとして予め定められている席に就く人は「ただの人」の傾向が強い。男性に互して職責を完了するにはそれなりの「実力」は条件。女に甘える女性は番外。

深町歴史散策 (8)

高崎 壽郎

稚子峠の赤子石
 上組「塚の堂」より東へ、中山陽道を三百mばかり登ると、頂上付近に「深田村字深中央」の石柱がめにつく。そこから東へ約二百m下ると、薄暗い林の中に大きな石がみつかる。これが稚子峠の赤子石。石の表面を削ってみると、赤子の足さくりの跡が沢山ある。江戸時代の中期の享保年間、宗が実権を握っていた。深郷土誌(昭和三八年発行)に、「享保十七年(一七三三)早魁で五穀枯死して大飢饉となり、餓死者が出た」とある。享保のそれは、西日本を中心としたもので、早魁に加え、害虫が異常に大発生したため被害甚大で、減収半額以上の藩は四六藩(全国約三百藩)、飢人二百万人(全人口二千七百万人)で、餓死者は一万二千人に達した。

芸州藩では二八万人が飢え、九七八人が餓死。三原市史の享保十七年(一七三三)凶作の餓死者数書村によると、深町の餓死者は三二人である。当時深町の人口は約六百人と推測されるので、二十一人一人亡くなったことになり、近隣の村に比べても格別多い。



人々は草の葉や、木の実はおろか、木の皮木の根その他あらゆる動物植物を喰ったのである。

「ボク」の集団疎開の思い出

林 一恵



空襲警報のサイレンの鳴る中、西田様の弟さんは、電灯に黒布を掛け、光がもれるのを防ぎながらの出産だったとか。終戦の年、二月に私は誕生しました。その直後に深へ集団疎開された方の手記というもので、私はとても興味がありました。さし絵入りで読みやすく、広報誌の発行を毎月楽しみにしています。自分の生まれた頃の深町がどんな状態だったのか、世の中はどうか、人・物・環境等多方面で知る事が出来ました。八歳位年上の筆者が、すでに

この時、現代では考えられない生活を強いられるおられたのかと思ふと感無量です。両親の元を離れ、見知らぬ村の、八歳の少年にとって想像以上の経験をされた事と思います。苦しき、貧しき、寂しき等人間の受けるあらゆる試練を受けながら、自然に身に付けたのが、助け合いの精神であり、ゆづり合い、忍耐力であったと思ふます。現代の子ども達も、決して心豊かな子ども達とは思えません。貧しくとも、心豊かな育て方はとても難しい事です。何

不自由のない現代、私達は、豊かな心をどうして育んでやればよいのでしょうか。どこから手をつけていけばいいのか判らなくなる様な今、私達の幼い頃に学んだ家族の事、近所の事、地域のこと等、人間として素晴らしいと思えること、は、どんな子ども達に引き継ぐ事だと思ひます。終戦になり、家族との再会の場面は短い文章ですが、手にとるように懐かしさが伝わって参りました。幼い子達にこんな想いを二度とさせたくないと思ひます。現在の日本の成長も、こうし

ある家の過去帳に、享保十七年(一七三三)の十月と翌年二月の戒名があると聞いたが、その時の犠牲者かもしれない。又、不幸にして、一家全滅の家もあったと思われる。深の伝説「稚子峠の赤子石」は、この飢饉の時犠牲になった子ども達の墓といわれている。又、江戸時代、やむにやまれず間引きした嬰兒を捨てた所だったという説もある。尚、昨秋深小学校の学習発表会で、十八年ぶりに「稚子峠の赤子石」の劇が四年生より上演され好評だった。

青葉の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、先日五月十九日(土)の三・四校時、第一回目のテーマタイムを実施しました。この時間は、前、紹介しました総合的な学習の一つとして深小学校で今年初めて実施したものです。一年間で六回、全部で十二時間の授業となります。今年度は七つのテーマについて学習します。そのテーマで子ども達にたくさんのお話を教えていただく先生方を紹介します。二回目は六月十六日(土)で、自分で選んだテーマで学

深小だより

習いますので、非常に意欲的に活動してはいます。総合的な学習については、このテーマタイムだけではありませんが、国語や算数、社会を基本に学習が展開されます。どのような内容なのか、詳しくお知りになりたい方は担任の先生に遠慮なくお聴きください。また、五月二十四日(木)には、二年生と五年生が井手上さんの田んぼをお借りして田植えの経験をさせていただきました。準備やお世話をしました。今度も、地域の中にある多くの学習教材と借りて豊かな学習内容を作っていくたいとおもいます。

テーマ	先生
ゲートボールをしよう	幸谷満夫さん
絵をかこう	船本輝明さん
昔の遊び①	坪見博文さん
昔の遊び②	金重八重子さん
こま、けんだま名人になろう	高崎壽郎さん
英語で遊ぼう	安藤志保さん
	村田善美さん
太鼓踊りをおどろう	為清敏治さん

町内各種団体役員名簿

団体名	氏名
町内会連合会	
会長	梶谷 和伸
副会長	西本一三・広川 弘之
事務局長	高崎 修
上組町内会	
会長	西本一三
副会長	石井 慧・新内 良春
中組町内会	
会長	広川 弘之
副会長	原田 章八
下組町内会	
会長	梶谷 和伸
副会長	秋本 賢治
P T A	
会長	天木 雅之
副会長	井手上孝・竹内利広・巻幡幸秀
消防団	
団長	藤 正徳
副団長	為清 敏治
女性会	
会長	沖西サカエ
副会長	久保瑞穂・村上孝子・亀谷庸子
尚寿会	
会長	村上 徹郎
副会長	幸谷 満夫・原田 章八
町民会館	
館長	梶谷 和伸
副館長	西本一三・広川 弘之
管理人	松秋 一成
子ども会	
会長	小林 正美
副会長	新谷 一也・岸 正勝
	小川 和彦・迫 強介
小学校・幼稚園	
校長	瀬畑三代子
教頭	春田美恵子
教諭	掛 志穂・大上 悦子・石井 敦
	本平 智子・原 裕子・久保 伸子
擁護教諭	藤田あさみ
主任事	堤 正臣
主任技師	藤崎みちの
幼稚園長	瀬畑三代子
同教頭	春田美恵子
担任	杉原 一美
如水館中・高校	
校長	田中 啓之
教頭	森坂 信幸

